

2025
28号

学校のトイレ研究誌
最新情報はこちら

学校のトイレ 検索



学校の トイレ 研究誌

トイレが変わる、トイレで変わる



これから
いま、そして
学校トイレの
座談会

「これからの学校トイレ」を
未来志向で共に考える

特集



豊貞 佳奈子

学校のトイレ研究会
会長
(福岡女子大学
国際文理学部環境科学科
教授)



小林 祐紀 さん

渋谷区
経営企画部
施設整備課
機械設備係
主査



大内 義鷹 さん

渋谷区
教育委員会事務局
教育政策課
学校施設整備第三係
主任



三嶋 聡 さん

目黒区
資産経営部
施設整備課
施設整備係
係長



加賀美 大雅 さん

目黒区
資産経営部
施設整備課
施設整備係
係長



渋谷区立代々木中学校*

©2025 Shibuya City Office All Rights Reserved.

学校トイレの いま、そして これから

学校施設の トイレ改修の現状

まず学校のトイレ改修についてお伺いします。どのような計画で整備を進められているのか、お聞かせください。

加賀美 目黒区では、築年数が経過している校舎が多く、平成26年頃から小・中学校のトイレの洋式化を本格的に進めてきました。平成30年頃から東京都の補助金を活用することで、より一層予算を確保しやすくなり、洋式化からフルリニューアルへとシフトし、「トイレの環境改善」に今まで

特集

「これからの学校トイレ」を 未来志向で共に考える 座談会

学校を取り巻く環境変化とともに、
トイレにおいても
新たな課題やニーズが生まれています。
今回、校舎の建て替えや
改修を計画されている
自治体の方にお集まりいただき、
これからの学校トイレの未来像を探りました。



目黒区立向原小学校*

©2025 Meguro City Office All Rights Reserved.

以上に積極的に取り組み始めました。現場で学校の先生や保護者に話を伺うとフルリニューアルは特に好評で、支持されていきました。

三嶋 プースの寸法が決まっているため、単純な洋式化では使いにくくなり、それならフルリニューアルにしようという流れもありました。「トイレをきれいにする」だけでは予算化が難しいケースもあるため、「教育環境の向上」の一環として進めてきた経緯があります。洋式化だけではなく、少しずつレベルアップできたのには、そういった背景があります。

小林 渋谷区では、昔は、いわゆる3K（暗い、汚い、臭い）のトイレがほとんどだったのですが、児童・生徒が快適に使用できることを目的に、昭和の終わりからトイレのスケルトン改修に着手し、10年程かけて小学校10校と中学校6校の改修工事を行いました。改修内容は、床は湿式、大便器はフラッシュバルブ。各トイレに1室洋式便器を設置、小便器は中学校が壁掛け式、小学校は床置き式。洗面は手動の水栓という共通の設計を行っていました。当時としては先進的であり、その後も未改修の小・中学校に着手し、トイレの改修は一段落しましたが、平成26年頃より学校から「すべてのトイレを洋式に変えてほしい」という要求が増え、平成30年から、便器の全洋式化工事を行っています。結果、令和2年までに渋谷区の学校全体の80%以上で洋式化を達成しています。トイレの改修は補助金を活用することで、予算が通りやすかったようです。

豊貞 平成30年頃は、教育環境の改善が進められ、空調設備の整備も行われたと思います。優先順位はあったのでしょうか。

三嶋 空調設備は全校まとめて実施することが多く、一方トイレは段階的に少しずつ改修され、年々グレードアップしていく傾向があります。

加賀美 トイレの環境をよくしていこうという機運があり、後回しという感覚はなかったですね。

*この資料は、現段階におけるイメージ図です。今後検討の深度化等にあたり変更になる可能性があります。



トイレ改修は 洋式化・乾式化で終わり？

次は、トイレの改修は、洋式化や乾式化で完結するの、か、というテーマで議論していきたいと思います。

三嶋 洋式化だけで終わってしまうと、子どもたちの目に見えるところや手に触れる所が古いままなので、大きな変化はなかったですね。やはりトイレブースや壁、床まで改修すると、学校から大変喜ばれました。

小林 コロナ禍では自動水栓、ここ数年はバリアフリー化に対する反響が高いです。職員や来客用トイレに温水洗浄便座を設置したときは特に好評でした。

先生方の働く環境の整備という意味では、トイレも重要な場所と思えますがいかがでしょうか。

加賀美 これまでは、限られた予算の中でトイレを改修していくため、児童・生徒用のトイレ整備を優先してきた経緯がありますが、今後は職場環境の整備という観点から教職員用トイレも大変重要だと考えています。

豊貞 小・中学校においても教職員のトイレのあり方を考えることは重要になってくると思っています。私も教員という立場ですが、一人になることができない、落ち着ける場所が必要だと思います。



地域社会との共生、 防災拠点としての役割

学校施設は、災害時の避難所としても利用される公共施設であり、地域のコミュニティ形成の場でもあります。次はこの観点で、学校のトイレのあり方についてご意見を伺いたいと思います。

小林 既存の学校では体育館の近くのトイレにおいて、洋式化と、温水洗浄便座や手すりを各ブースにつける改修を進めています。

また、体育館から段差なしで移動ができる場所にバリアフリートイレの整備も計画しています。

大内 新しい学校では平常時に使用しているトイレを災害時にも使えるように非常用発電機を導入する予定です。

また、地域の拠点としても開放する計画ですので各フロアにはバリアフリートイレを設置していきます。

体育館は避難所として利用するので、1階にトイレを配置し、足の不自由な方でも使えるよう計画しています。

豊貞 マンホールトイレや携帯トイレは常備されていますか。

大内 渋谷区は各学校で避難者の3日分を想定した数の携帯トイレを備蓄しています。マンホールトイレは、テントをかぶせる形状となるため、臭いや衛生面で課題があります。トイレを我慢せず使用できるよう、平常時に使っているトイレを非常時にも活用できるように注力しています。

三嶋 体育館等は災害時利用のトイレを整備中ですが、現状では個数が足りていません。

普段は使われない部分にどれだけ予算を確保できるか、そのバランスが難しいですね。配管の耐震化、非常用発電機など、悩むポイントは多くあります。

加賀美 災害時に停電すると換気扇も回らない状態になってしまいます。停電時でも必要最低限の換気ができるよう窓面の整備も重要ではないかと思っています。

渋谷区さんは避難所のトイレとして、設計時にどういった視点をもちでしょうか。

小林 災害時に配慮が必要な方や、要介護者にも安心して使っていたりするような設計を進めています。

大内 渋谷区には地域開放で車いすラグビーを実施している学校もありますのでそのような方が利用できる整備も必要と感じています。

災害時は、区の防災課統括のもと、保健師による衛生指導も行い、町会の人たちに避難所運営委員会として活動していただく体制になっています。

加賀美 地域社会との共生という観点では、学校を地域コミュニティの形成の場として位置づけていきたいと思いますが、セキュリティ面に不安を感じている保護者や教職員の方も多いですね。

公立小・中学校バリアフリー化の状況

対 象		令和6年度整備状況		令和7年度末までの 整備目標
		校舎	屋内運動場	
バリアフリートイレ		74.3%	47.9%	避難所に指定されている 全ての学校に整備 ※1
スロープ等 による 段差解消	門から建物の前 まで	84.7%	80.7%	全ての学校に整備
	昇降口・玄関等 から 教室等まで	65.2%	65.5%	全ての学校に整備
エレベーター 1階建ての校舎のみ保有する学校を含む		31.2%	72.1%	要配慮児童生徒等が在籍する 全ての学校に整備 ※2

※1: (校舎) 総学校数の約94%に相当 (屋内運動場) 総学校数の約97%に相当

※2: (校舎) 総学校数の約43%に相当 (屋内運動場) 総学校数の約78%に相当

出典: 文部科学省「学校施設のバリアフリー化に関する実態調査 調査結果のポイント(調査時点: 令和6年9月1日時点)」を一部加工



大内 渋谷区も同じです。シャッターを閉めるなどの対応をはじめ、授業があるときは地域開放をしないなどの対策も検討する必要があると思っています。

豊貞 渋谷区は公園トイレを整備する事例がありますが、公共施設のトイレをオープンにしている上では一長一短がありそうですね。

三嶋 公園のように不特定多数が前提である場合より、学校という特定多数だった場所を準不特定多数の方が利用するようになるとセキュリティ面で摩擦が起こる可能性が高いと考えています。

新しい時代の 学校トイレとは？

—ここからは、現在ご計画中の新築や増改築の学校施設やトイレについてお話を聞きたいと思っています。—

加賀美 目黒区は、学校施設の老朽化が進み、それを更新していくべき状況にあり、区有施設見直し計画や学校施設更新計画を定めています。基本的なスタンスとしてはICT化やバリアフリー化などいろいろなニーズが出ており、既存の改修では対応が難しい部分もあるため、建て替えという方向に進んでいます。方向性については、文部科学省の有識者会議の報告書にある通り、学校施設全体が学びの場となるよう求められていると考えています。もはや教室内でのみ授業をして、廊下

は移動するための空間ではありません。同時に、トイレもこれまでのように単にブースが並び、排泄のためだけに使う空間ではなく、清潔で安心して利用できる環境を整えることで、学校全体の快適さにつながるような場所にしていきたいと考えています。また、LGBTQの児童・生徒や、クールダウンが必要な子などへ配慮した、柔軟で多様な使い方ができるトイレ空間を検討していきたいと思っています。

三嶋 具体的な事例として向原小学校の計画を紹介します。同校には区民の方も使える複合化された施設があり、学童クラブや児童館、貸し会議室といった施設が設けられます。教室の前にはオープンスペースを配するレイアウトになっています。トイレは、メインの男女別トイレに加えて、いろいろな用途に配慮した「個室トイレ」という新しい概念を導入します。仮称「誰でもトイレ」となっていますが、名前は検討中です。目的としては、LGBTQの方や、ちょっと落ち着きたいときに入れるような、すべての方が安心して使えるトイレを整備したいと考え、閉塞感をなくすよう回遊できるレイアウトとし、通路に縦ルーバーを施すことで外部からの視線にも配慮しています。内装はクロス等を用いてあたたかい雰囲気にし、照明も暖色系を考えています。扉は基本内開きですが非常時に外開きにできる建具を採用します。

加賀美 体育館開放時はこの「個室トイレ」を使う形となります。実際に運用し、状況を注視しながら、その先の運用を検討していきたいと思っています。「個室トイレ」については、従来のブースより広めにつくり、フィッティングボードなども設置して児童の着替え等の需要にも応えられるようにしています。

豊貞 従来のトイレですと出入り口付近に手洗いがあり、そこで子どもたちがおしやりなどをしていると個室から出にくくなることもあります。お示しいただいたプランでは個室の中に手洗い器

目黒区の「個室トイレ」のプラン例



次世代の学びの環境

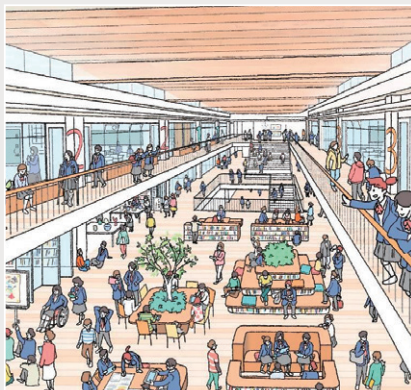
学びのひろば（イメージ）：目黒区



廊下（イメージ）：目黒区



ラーニング・commons（イメージ）：渋谷区



可変性のある学習空間（イメージ）：渋谷区



を設けられていて、そういったことも軽減されそうですね。

大内 渋谷区も築50年以上の建物が4割を超えており、現在ロードマップを作成して、今後20年で22校の建て替えの計画を推進しています。新しい校舎については、図書館や区役所の出張所などと複合化して建物の効率性を向上させていくことを目標としています。その際にはさまざまな方が施設を利用されることになるので、セキュリティやバリアフリーの整備もしていく計画です。また、今まであった単純な廊下もラーニング・commonsという広い共有スペースになり、教室と教室をつなげたり、廊下に机を持ってきて、さまざまな授業をしたりするなどの可変的な学びができるようにしています。トイレについては男女共用の個

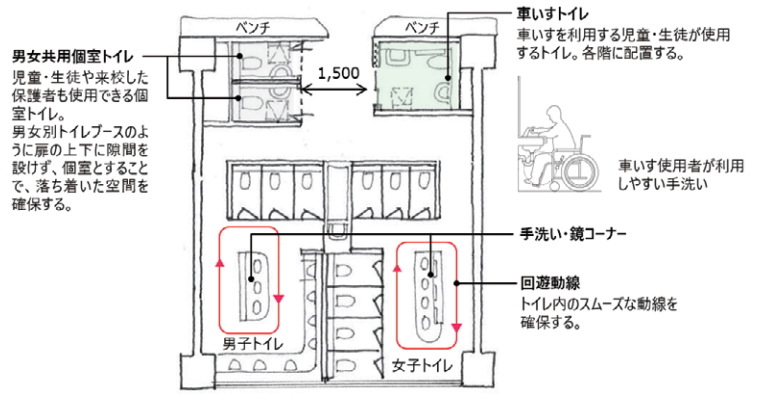
室トイレを設けたり、さまざまな方が利用できるよう、各階に広めの個室を確保していきます。学校によって異なりますがオストメイト対応やベビースhirt、着替え用のボードも設置する計画を進めています。特に男女共用個室トイレについては目につきづらい場所でありながら、誰もが気兼ねなく使えるような配慮も必要だと思っています。

小林 家庭的な空間づくりも大切ではないか、との意見もいただき、プラスアルファの面でデザイン等を検討しています。

豊貞 自分たちの教室を超えてさまざまな場所で学ぶ環境があることで、自分たちが普段使うトイレに対する捉え方も変わってくるかもしれないですね。

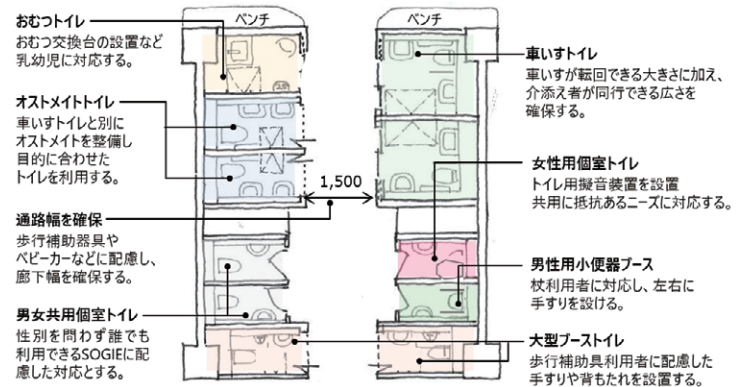
渋谷区のトイレプラン例

●児童・生徒用トイレ（各フロアに設置）



© 2025 Shibuya City Office All Rights Reserved.

●ユニバーサルデザイントイレ（教員・地域の利用が多く見込まれる箇所に設置するトイレの配慮参考例）



© 2025 Shibuya City Office All Rights Reserved.

「渋谷区が考えるこれからの学校施設」より

加賀美 校舎の面積には制限があるので現実的にどこまでニーズを反映させて整備していくかで悩むと思うのですが、優先的に実現したい事柄はありますか。

小林 バリアフリートイレや広めのブースは優先度が高いと考えています。またオストメイト対応にも留意しています。

加賀美 目黒区では、男女共用個室トイレは複数設置したいと考えています。

LGBTQ団体の方と意見交換をさせていただいた際に一つしかないという声がありました。複数あれば自分が使ってももう一つは空いているので気持ちのハードルを下げられるメリットがあります。

三嶋 さらに、カウンセリング室や保健室、会議室をそれぞれ配し、不登校の子どもの登校時に利用できる部屋として計画しています。その子どもたちがトイレを使う場合は「個室トイレ」を利用できるように検討しています。

加賀美 昇降口も分けてあげたいと考えています。メインとは別に時間をずらして入れる箇所を設け、「個室トイレ」もなるべく近くに配置することとで他の子どもと会わない選択ができると思っています。

大内 渋谷区も考え方としては近く、昇降口とは別で保健室へも外から直接入れるようにし、トイレもその近くに配置するよう検討しています。特別支援教室がある学校では、そばに専用のトイレを設け、シャワー室も整備しています。

最後に、新しい時代の学校施設のあり方を考えたときにトイレはこれまでと比べてどう変わっていくとお考えでしょうか。

また、学校施設の中でトイレはどういう存在で、どういう役割があるとお考えられていますか。

加賀美 新しい時代の学びを実現する学校においては「学校施設全体が学びの場」となることが重要であり、トイレについても排泄するための空間ではなく、そういった考え方が必要だと思います。また、決まった使い方ができないのではなく、手を加えやすい設計も重要になりますし、目黒区としてもいろいろなお話がありましたが、先進事例をお示しいただいて、新しい時代のトイレが実際に提案され、さらにブラッシュアップの過程にあることをとても嬉しく思いました。

三嶋 かつて子どもたちが気持ちを整理したり、落ち着ける場所としてDEN^{*}が設けられることがありました。その背景から同じような悩みはずっと前からあり、今後はトイレがその役割の一部を担うかもしれません。DENとトイレの関係のように、ちがう視点から見るとちがった解決策が出てくるのではないかと思います。スペースがないと何もできないので、一番重要なのは、計画の最初の段階から必要な要素を含めていくことだと思います。

大内 使う人もいろいろな方がいらっしゃるの、その方々に合わせた施設の整備が必要だと思っています。トイレは、毎日複数回誰もが使う場所なので、落ち着かない場所だと普段の生活にも支障があります。特に多感な年代の児童・生徒が少しでも安らげる空間に整備ができたと思います。また、つくって終わりではなく、50年後、100年後も、トイレを使う人たちに、私たちがチャレンジした思いなどを伝えていくためにマニュアルを整備するなど、受け継いでいくための仕掛けや工夫も大事だと改めて感じました。



座談会ご出席者(最前列)と学校のトイレ研究会 研究員

小林 トイレは排泄のための場所という考えが強かったのですが、自身を振り返ってみるとコミュニケーションの場であったり、逆に一人になりたい時にも利用していたことを思い出しました。この5、6年でトイレに対する多様な考え方が生まれていると感じています。

渋谷区としても男女共用個室トイレの場所や内装や設備、機能など多方面で悩みながら進めているところなので、今日は貴重なお話を聞け、今後の整備の参考になりました。

豊貞 今日は様々なお話がありましたが、先進事例をお示しいただいて、新しい時代のトイレが実際に提案され、さらにブラッシュアップの過程にあることをとても嬉しく思いました。

学校が複合施設や避難所など多種多様な使われ方をすることで、トイレは今以上に優先されるべき存在であると改めて思いました。トイレについての研究は奥が深く、皆さんがとても想いを持って学校施設整備に携わられていることに感謝しました。

^{*}DEN：英語で「巢穴」を意味し、「隠れ家的な部屋や小空間」を指す言葉として用いられる。



キレイなトイレに蘇る クリーニング工法

日常生活に不可欠なトイレ。弊社は「使う人の身になったとき、何を提供できるか」を、考え方の原点としております。トイレを蘇らせる特殊清掃に加え、施工後の美技研修を通して、トイレをキレイに維持するメンテナンスアドバイス等も行っております。さまざまな制約の中でも、学校のトイレを変えたいというニーズを実現するクリーニング工法です。



学校トイレの洋式化に 最適なトイレブース

学校向けトイレブース「ウェイブレット」は、ドアが円周上をスライドするので、和式トイレと同じスペースで洋式化が可能な省スペース設計。体をよけることなくドアを開閉でき、出入りもスムーズ。車いす対応タイプも揃えています。バリアフリー化にも対応、感染症対策・避難所対策としての学校トイレ洋式化改修に最適です。



清潔、快適なトイレ創りに 最適な壁装材

学校トイレの壁面仕上げ材の定番「セラール」。多彩な色柄に加え、硬く、強く、お手入れも簡単。きれいなトイレ空間を長く保つことができます。さらに、抗ウイルス・抗菌・消臭性能を持つセラールウイルテクトPlusは清潔感と快適性の維持のお役に立ちます。既存のタイル下地を活用する「セラールONタイル工法」は20年以上の実績。改修工事の工期短縮、廃材や騒音などの環境負荷も低減します。

さわやかなトイレ環境を創造する 株式会社 木村徳太郎商店

株式会社木村徳太郎商店

〒112-0004 東京都文京区後楽2-5-1
TEL.03-3811-2919
<http://www.toku-kimura.co.jp/>

人を想い、場を創る。

OKamura

株式会社オカムラ

ワークプレイス製品部建材製品チーム

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1
ニューオータニガーデンコート24F
お問い合わせ・ご相談はお客様相談室へ
フリーダイヤル ☎0120-81-9060
<https://www.okamura.co.jp/>

AICA

アイカ工業株式会社
営業企画部

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6
住友商事錦町ビル4F
TEL.03-5282-1050
<https://www.aica.co.jp>

学校のトイレ研究会とは

学校のトイレ研究会は、
児童・生徒が安心して使える
清潔で快適なトイレを
提案・普及していくことを目的に、
トイレ関連企業が結集して
一九九六年に発足しました。
以来、各社の知見や
ノウハウを生かしながら、
調査・研究・啓発活動を
重ねています。

編集後記

研究誌28号をお読みいただきありがとうございます。
ございました。

昨年の夏より研究会メンバーとなり、学校施設のトイレ見学をさせていただくなど様々な活動を行うなかで、実際に通っていた頃の学校トイレとの変化を感じるとともに災害発生時の対応等、新たな課題について考える機会が多くありました。

多様性が受け入れられ、誰もが過ごしやすい社会へと変化している現在、学校においてもトイレをはじめとする施設のバリアフリー化が求められています。今号の特集では、座談会形式で学校のトイレ改修の現状、防災拠点としての学校トイレの役割、及び新しい時代の学校トイレについて貴重なお話を伺いました。

学校のトイレ研究会は1996年に発足以来30年目を迎えました。今後も本会の活動が学校施設の環境向上に貢献することができれば幸いです。

最後になりますが、取材ならびにアンケートにご協力くださったみなさまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

学校のトイレ研究会
重久 春佳

学校のトイレ研究誌28号

編集・発行：学校のトイレ研究会

会長：豊貞佳奈子（福岡女子大学 国際文理学部環境科学科 教授）
アイカ工業株式会社、株式会社オカムラ、株式会社木村徳太郎商店、TOTO株式会社、ミッケル化学株式会社、ロンシール工業株式会社

編集委員：アイカ工業株式会社 佐伯光晴 上田哲哉 園野智史 富田栄一
株式会社オカムラ 渡部寛人 阪本晴一 井上豊
株式会社木村徳太郎商店 木村基治 山本隼矢
TOTO株式会社 富岡千花子 河村浩 中島薫
ミッケル化学株式会社 中西真人 大久保貴喜 李若瑄 MIAO YULEI
ロンシール工業株式会社 川上浩昭 重久春佳

編集協力：イシイ株式会社
印刷・製本：真生印刷株式会社
表紙写真：高山市立荘川さくら学園
（表紙面掲載）
高山市立荘川さくら学園
（裏表紙面掲載）



*無断での本誌の全体、または一部の複写・複製・掲載を禁じます。本誌の著作権はすべて「学校のトイレ研究会」に帰属します。



乾式トイレに最適なビニル床シート 「サニタリウム アルファ」

厚く均一なコーティング層が、優れた超防汚性や耐尿汚染性に加え、抗ウイルス性も付与。尿による汚れやシミ、トイレ用洗浄剤からの変色を防ぎます。また、ワックスなしでも汚れが付きにくく、汚れが付着しても落としやすいビニル床シートです。デザインも抽象柄をはじめ、繊維調、木目柄など豊富な柄をご用意いたしました。「サニタリウム アルファ」は、乾式清掃を行うトイレに最適な超防汚抗ウイルス性ノーワックスビニル床シートです。



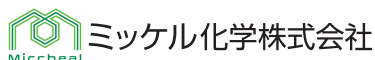
ロンシール工業株式会社

〒105-0021 東京都港区東新橋2-3-17
モメント汐留11F
TEL.03-6452-9158
<https://www.lonseal.co.jp/>



健康と持続可能な社会を考えた エコマーク認定手洗い石けん液

感染症や食中毒は、不十分な手洗いによって広がります。トイレの後や食事の前に、「液体の手洗い石けん」を使った正しい手洗いを習慣づけることはとても大切です。資源を無駄にしないために、原料にリサイクル食用油を使い、資源や廃棄される食用油を削減し、持続可能な社会づくりと健康を守るためになくてはならない手洗い用液体石けんとして「再生油をつかったエコ・ハンドソープ」をおすすめいたします。



ミッケル化学株式会社

〒135-0014 東京都江東区石島2-14
ImasRiverside 4F-A
TEL.03-5633-2520
<https://miccheal.co.jp/>



連続洗浄可能なトイレが 一般的な15A給水管で実現

タンク式と同じ給水口径15Aでフラッシュバルブ式と同等の連続洗浄が可能な新洗浄システム「フラッシュタンク式」は、約20秒で次の洗浄ができるので、休み時間の混雑緩和につながります。フチがない形状でトイレ掃除がラクになります。便座は電源不要な発電式エコリモコンタイプの温水洗浄便座がおすすめ。便座があたたかく、流水音による消音効果でプライバシーを守りながら水のムダ遣いをカット、「きれい除菌水」の力できれいなが長持ちするので、快適・衛生的にトイレを使えます。

あしたを、ちがう「まいにち」に。



TOTO株式会社
プレゼンテーション企画グループ

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-5
JR南新宿ビル 6F
TEL.03-5309-2007
学校トイレに関する情報・カタログはこちら
<https://www.com-et.com/>

現場事例
全国
約80現場

調査レポート
自治体・学校
アンケート
結果

研究誌
閲覧・取り寄せ
無料

「学校のトイレ研究会」 Web サイト

<https://www.school-toilet.jp/>

学校のトイレ研究会(会員企業6社)は、昨年、15年ぶりにWebサイトを全面リニューアルいたしました。研究会の活動内容や現場事例、調査レポート、清掃動画など数多くのコンテンツを掲載。必要な情報を探しやすい、スマートフォンやタブレットでも場所・時間を問わず閲覧・共有できる構造・デザインへ一新しました。過去の研究誌もライブラリーから無料で閲覧・取り寄せが可能です。今後も、より良い学校トイレ環境づくりを目指して、調査・研究活動を重ね、デジタル情報をタイムリーに発信します。ぜひご活用ください。

研究誌に掲載していない情報も発信しておりますので、ぜひご覧ください。

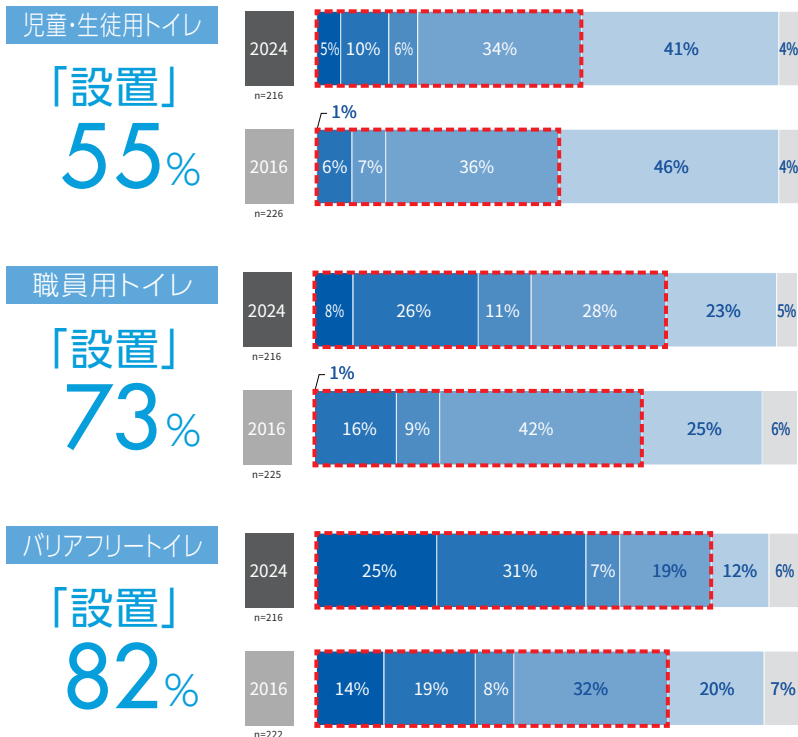
「学校のトイレ研究会」Webサイトは
こちらから
ご確認ください。

「学校トイレ」で検索

Q3 学校施設の洋式便器への温水洗浄便座設置の割合は？

出典：2024年度全国自治体アンケート調査（n=216）

■ すべてに設置 ■ 設置が多い ■ 半数程度設置 ■ 設置が少ない ■ 全く設置していない ■ わからない



学校施設の老朽化対策が急務

Q4 重点的に取り組んでいる施設整備は「老朽化対策」が73%、「トイレの洋式化・乾式化」64%で上位になっており、公立小・中学校施設の老朽化（約8割が築25年経過）対策が急務となっているようです。

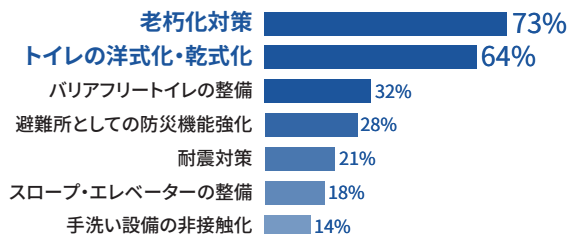
Q5 「冷暖房設備の整備」に次いで「バリアフリートイレの整備」が40%、「常設トイレの洋式化」が36%で上位になっています。近年頻発する気象災害の影響もあり、学校が避難所として機能するうえで必要な施設改修の実現が期待されます。

進められる児童・生徒たちへの多様なニーズ対応

Q6 性的マイノリティの対応も視野に入れたトイレの整備を行ったこと、または予定が「ある」が約2割となり、整備内容としては、「バリアフリートイレの設置・増設」が71%、「男女共用トイレの設置」が48%で、特に男女共用トイレの設置は2018年度から倍増しています。さまざまな特性をもつ子どもたちが、まわりを気にせず安心して自由にトイレを選べるような環境づくりが進められています。

Q4 学校施設の整備において重点的に取り組んでいることは？（上位7項目）

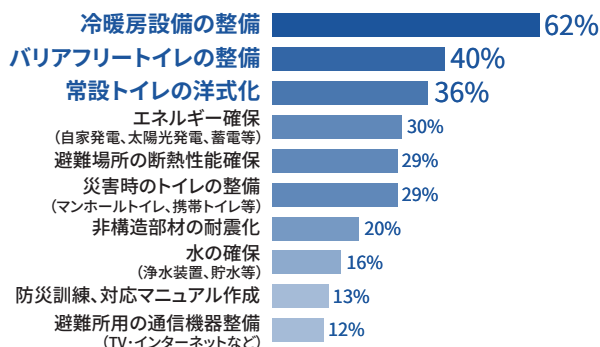
出典：2024年度全国自治体アンケート調査（n=211／複数回答）



「老朽化対策」「トイレの洋式化・乾式化」が上位

Q5 学校施設が防災拠点の役割を担うために今後優先的に改善した方がよいと思うことは？（上位10項目）

出典：2024年度全国自治体アンケート調査（n=214／複数回答）

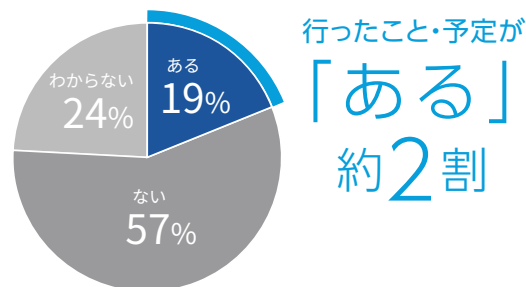


冷暖房設備とあわせて「バリアフリートイレの整備」「常設トイレの洋式化」が上位

Q6 性的マイノリティ（LGBTQなど）の児童・生徒への対応も視野に入れて、トイレ※の整備を行ったこと、または行う予定はありますか？

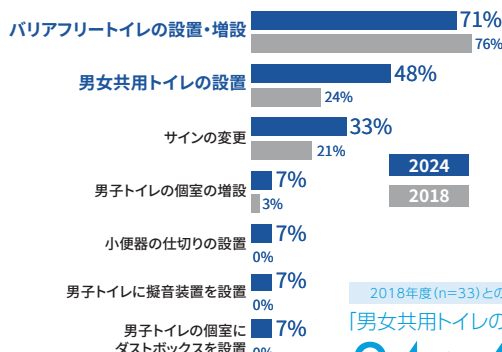
※ バリアフリートイレを含まない

出典：2024年度全国自治体アンケート調査（n=216）



「ある」と回答された、整備内容は？（上位7項目）

出典：2024年度全国自治体アンケート調査（n=42／複数回答）



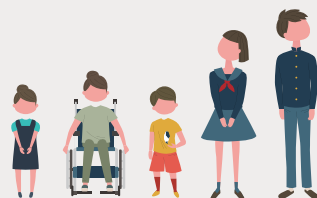
2018年度（n=33）との比較
「男女共用トイレの設置」
24% → 48%

「バリアフリートイレの設置・増設」と合わせて「男女共用トイレの設置」が増加

2024

最新 全国自治体
アンケート
調査報告

洋式化の加速と 避難所としての 学校施設の現状を探る



今回の調査では、避難所に指定されている公立小・中学校施設に対して、文部科学省より2025年度末までの整備目標として掲げられている「洋式化」や「バリアフリートイレの設置」をはじめ、避難所としての防災機能の整備状況について伺いました。

着実に進む洋式化、 やや遅れ気味の乾式床

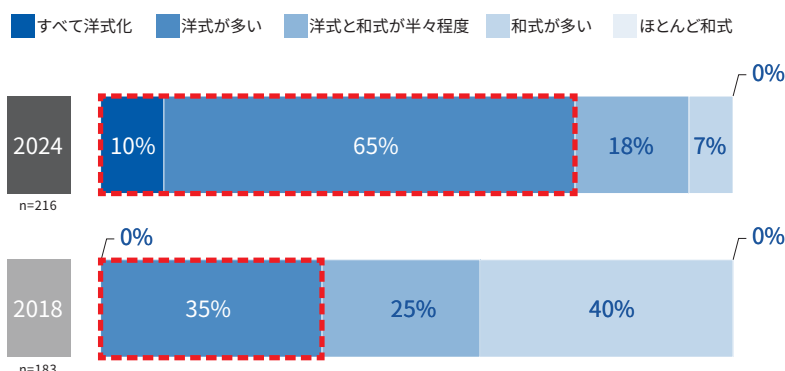
Q1 「すべて洋式化」と「洋式が多い」で75%となり、2018年度と比較して増加しています。着実に洋式化が進む一方で、「洋式と和式が半々程度」と「和式が多い」で全体の1/4を占めていることがわかります。

Q2 トイレの床のタイプでは、「すべて乾式床」と「乾式床が多い」で49%になっており、Q1の結果からトイレの洋式化は進んでいるものの、床の乾式化に遅れが出ていることが読み取れます。

Q3 温水洗浄便座の設置については、割合にばらつきはあるものの、児童・生徒用トイレは55%、職員用トイレは73%、バリアフリートイレは82%に設置されています。

Q1 学校の児童・生徒用トイレの洋式化はどのくらいですか？

出典:2024年度全国自治体アンケート調査 (n=216)



2018年度(n=183)との比較

「すべて洋式化」
「洋式化」

35% → 75%

WEB掲載中！ アンケート項目

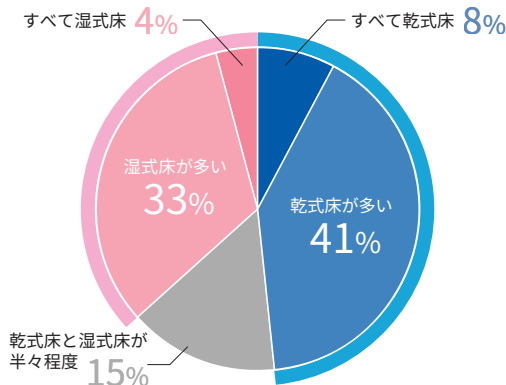
- Q.7 学校施設の常設トイレについて、災害避難所としての役割を担うために今後改善が必要と思うことは？
- Q.8 性別に関係なく使える男女共用トイレは学校に必要なと思われますか？
- Q.9 学校施設の省エネ化・ZEB化のために重要と思われること、取り組んでいることは？

学校のトイレ アンケート
詳細情報はこちら



Q2 学校施設のトイレの床のタイプは？

出典:2024年度全国自治体アンケート調査 (n=216)



「すべて乾式床」
「乾式床が多い」

49%

「すべて湿式床」
「湿式床が多い」

37%

調査概要

*各グラフの数値は小数点以下四捨五入。合計しても必ずしも100とならない。*nはいずれも有効回答数 *調査方法は郵送またはFAX
 ■2024年度全国自治体アンケート調査 調査対象:全国1,787自治体 調査時期:2024年10月~2025年4月 回答数:216(回答率12.1%)
 ■2018年度全国自治体アンケート調査 調査対象:全国1,787自治体 調査時期:2018年11月~12月 回答数:232(回答率13%)
 ■2016年度全国自治体アンケート調査 調査対象:全国1,787自治体 調査時期:2016年11月~12月 回答数:229(回答率12.8%)



3階北トイレ

ハケ岳と紅葉を表現。タイルに角度を持たせ雄大な山並みを感じさせるデザインに。



学校のトイレ 事例 詳細情報はこちら

学校のトイレ 事例 検索



トイレサインピクトグラム

地域の特性を生かした、創造性豊かなトイレサイン。



トイレ壁面デザイン

土やモザイクタイルで児童・生徒がいっしょになって創作。地域性を表現したここにしかないデザイン。



メディアセンター／図書館

メディアセンター内にあり、地域の方も利用できる。靴を脱ぎリラックスして絵本を読むコーナーもある。



メディアセンター／プレゼンテーションスペース

地域の方の交流拠点としても利用。



2階南トイレ／トイレ入り口手洗いコーナー

木材の優しさをさらに際立たせるアールを採用した設計。



2階南トイレ／トイレ内手洗いコーナー

明るくさわやかな色づかいのトイレ。身だしなみを整えるカウンターも設置されている。



2階北トイレ／トイレ入り口手洗いコーナー

トイレ前に設置された手洗いは広々とし、清潔感と機能性を兼ね備えている。

児童や生徒たちの交流の場や ほっとする空間に

今回の新校舎建設では、設計段階から地域住民や教職員、児童・生徒とワークショップを行い、計画について検討を重ねてきました。そのなかで、トイレにおいて児童や生徒の意見が反映されたのが入り口のサインです。「通常の男女を表すピクトグラムは用いず、小学校のフロアには縄文時代に使用されていた道具、中学校のフロアには周辺の山々をアイコン化したものを採用しています。トイレ内の個室の扉には、淡いトーンのブルーとピンクを用い、男女各トイレの視認性に配慮しました」と設計を担当した東畑建築事務所の久保久志さん。永明中学校の矢崎知広校長先生は「総合的な学習の時間でジェンダーフリーについて学ぶ機会があり、久保さんにも入っていただきました。そこで男女を区別するデザインに対して生徒たちが疑問を投げかけ、その声を全面的に受け止めていただいた

結果、今回のデザインが生まれました」と振り返ります。

このほかにも茅野地域の縄文文化を伝えたいということから、校舎完成前にモザイクタイル体験ワークショップを開催。縄文文化をイメージしたデザインを募り、選定した作品が1階トイレのモザイクタイルに反映されています。

永明小学校・永明中学校の校長先生方は、「新しい校舎の新しいトイレだからこそ、どうすればいつまでも美しい状態を残せるか、みんなで考えて使い、そして、掃除に取り組んでいこう」と機会があるごとに伝えていきます。

そこには、ワークショップなどで児童や生徒たちも新しい学校づくりに参加してきたからこそ、トイレの清掃についても自分たちで主体的に考えることを大切にしていきたいという願いが注がれています。



バリアフリートイレ

男女問わず利用するバリアフリートイレは落ち着いた色調のタイルを採用。



3階南トイレ 1

校舎から一望できる永明寺山のアカマツとそこに生い茂る草木を表現。



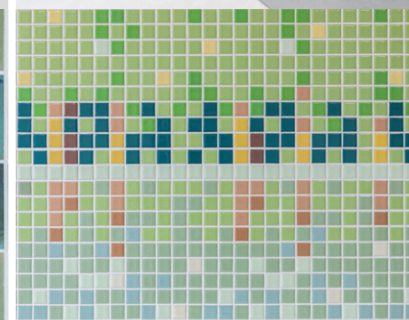
3階南トイレ 2

長野県の県木の白樺と白樺湖を白のタイルを基調に色のコントラストで表現。



2階北トイレ

御射鹿池の鏡のような、水面が映す季節の変化をモザイクタイルで表現。



事例

02

新築

長野県茅野市

茅野市立永明小学校・茅野市立永明中学校

児童や生徒たちの想いを受け止めた新しいトイレ

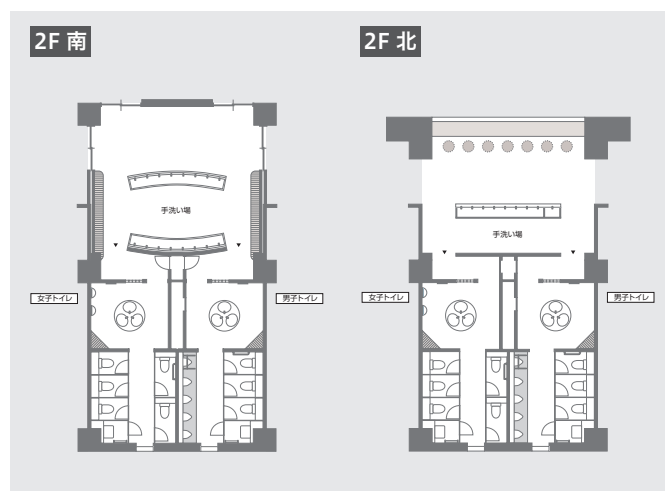
一つとして

同じデザインやレイアウトがないトイレ

永明小学校の校長先生が児童たちに「新しい校舎で一番好きなところはどこ？」と質問したところ、最も多かった答えが「トイレ」だったそうです。

また小学生にインタビューすると「旧校舎のトイレはニオイが強く、暗かった。新しい校舎のトイレは、タイルアートが楽しく、清潔感があって明るい」と答えてくれました。その言葉の通り、トイレに入るとすぐに目を引くのは壁面のモザイクタイル。そこには「土」「水」「森」という各階のコンセプトをもとに茅野市の自然や文化を感じるデザインが施され、以前より大きな面積を確保した窓が、自然光をたっぷり採り入れ、明るい空間となっています。手洗いは、トイレ内に設けられているほか、出入口の手前にもセンサー式の自動水栓を設置した広い手洗い空間を確保。さらにバリアフリートイレも随所に設けられ、特別支援学級のすぐそばには専用のトイレも整備されています。

新校舎には一つとして同じデザインやレイアウトのトイレがありません。小学校から中学校へと長い年月を過ごすため、トイレごとに変化を持たせ、成長を感じながら違いを楽しむことができる空間になっています。



2階のトイレ。入り口に大きなスペースの手洗いコーナーが設けられ、多目的に使用できる。トイレ内には円形の手洗いカウンターがセンターに配置され、ワクワクするような空間に。校内のトイレは全てデザインが異なっていて成長を感じながら楽しむことができる。

名称：茅野市立永明小学校 茅野市立永明中学校／所在地：長野県茅野市塚原1丁目9-1／児童生徒数：茅野市立永明小学校 児童数：519人／茅野市立永明中学校 生徒数：315人（2024年4月）／施主：茅野市／設計・監理：東畑・茅野市設計事務所協会設計共同企業体／施工（建築）カネモ・田村建設特定建設工事共同企業体（機械）共進エネープ株式会社（電気）南新電気工業・平澤電気工事特定建設工事共同企業体／竣工年月：2028年竣工予定

茅野市立永明中学校／生徒さん
新しくなったトイレの前のベンチ。
土器の街にちなんで壁をデザインしている。



長野県茅野市

茅野市立永明小学校・茅野市立永明中学校



1階 男子トイレ

校内のトイレは一つとして同じレイアウトやデザインがなく、
9年間にわたる学校生活を過ごす中での変化を大切にしたい。

豊かな自然と歴史的遺産が 表現された新校舎

2022年2月に着工し、2024年4月から児童や生徒が学び始めた施設一体型の永明小・中学校。今後はアリーナやメイングラウンド、駐車場などが整備され、2028年には全工事が完了する予定となっています。

「以前は同じ場所に小学校と中学校が別々に建っていましたが、どちらの学校も施設設備の老朽化が著しかったことや、また地区コミュニティセンターや保育園など周辺の公共施設との連携を見据え、環境や安心・安全などに配慮した施設整備指針に基づいて、一体型の校舎整備に至りました。この事例が茅野市をはじめ、諏訪地域では初の施設一体型小・中学校となります」と茅野市教育委員会の畠山貴行さんは説明します。

8の字型ですべてが結ばれ、回遊性を持たせている新しい校舎。中央にメディアセンター、その両脇には中庭。北側と南側には

事例

新築

02



木の質感を大事にし、ぬくもりを感じる空間に仕上げられた校舎。

平行に2つの普通教室ゾーンが並び、そこに特別教室ゾーンが繋がっています。

新しい校舎を特徴づけるのは、1階を「茅野の土」、2階を「茅野の水」、3階を「茅野の森」と茅野市にゆかりのあるモチーフをコンセプトに、普通教室や特別教室のサインや壁面がデザインされていること。それはトイレのデザインにも展開されています。

豪雪地帯ならではの 対策も反映

新しく誕生した校舎の外観には、随所にスチールのルーバーが施されています。デザイン的なアクセントとして建物を飾っているように見えますが、実はそれだけではありません。岐阜県内でも有数の豪雪地帯として知られる荘川地域。半年近くの長い期間、地域全体が積雪対策を取る必要があり、学校も例外ではありません。そのため、屋根の雪下ろしや雪囲いなど、落雪対策も保護者といっしょに行われてきました。今回の荘川さくら学園の設計に関しては何度かワークショップが開催されましたが、ここでも要望として出されたのが落雪対策の負担を軽減することでした。今回、採用されたスチール製のスノーガードは、屋根からの雪を粉碎し、一度にまとまって落下することを防ぐと同時に、雪囲いの機能も持ち落雪や吹雪によって窓ガラスが破損することを防ぎます。

事例

01

新築

改修

また、アリーナの壁面には太陽光パネルを設置。通常なら屋根部分に装着することが多いですが積雪によって埋もれてしまうことを回避することと、積もった雪で反射する太陽光もエネルギーに変換することを考慮しています。そういった豪雪地帯への対策は、トイレの設計にも反映されています。寒冷地対策として手洗い器はすべて電気温水器付きの自動水栓で手をかざすだけでお湯が出ることはもちろん、トイレ内には暖房用の電気パネルを設置。便座も温水洗浄機能付きのあたたかい便座が採用されています。さらに上水道は、凍結防止装置が稼働しています。



太陽光パネル



スノーガード



教室
教室と廊下との間の壁をなくし、開放的な学習空間に。



交流スペース
交流スペースの大階段は子どもたちの発表の場としても活用。

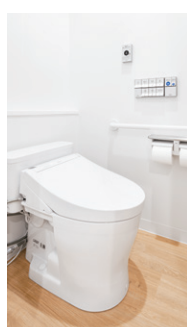


岐阜県高山市

高山市立荘川さくら学園

2階トイレ入り口

廊下とトイレの間の手洗いにはベンチを設置。子どもたちのいこいの場や荷物の一時置きに。



トイレサイン
飛騨高山の伝統工芸である「寄木」で作られたサイン。

2階児童・生徒用トイレ

冬場でもあたたかい温水洗浄便座で安心して使用できる。



アリーナ2階トイレ

木材を多く用い、ほっとする空間にデザインされたトイレ。年齢や身長の子どものたちが使いやすいよう、手洗い器や鏡は高さや大きさを変えている。すべての手洗い器に電気温水器と自動水栓が設置され、寒い冬でもしっかりと手洗いができる。

家庭のようにトイレも ほっとできる居場所に

設計を担当した大建設計の大岩正輝さんが、校舎をデザインする上で大切にしたのは、愛着を持っていっしょに成長できる学びの場づくり。その視点は、トイレのデザインにも生かされ、まるで家にいるようにほっと心が和むよう、校舎と同じように木のぬくもりが漂う空間に仕上げられています。また特別支援学級の近くにあるトイレの入り口部分には、ベンチを設置。ゆっくりと座って友だちと談笑したり、教科書や筆記用具をトイレ使用時に一時的に置いたりすることもできます。様々な配慮や設備が施されたトイレに対して都竹克彦校長先生は「運動や遊びなどでケガをした子どもや、衛生面を気にする子ども、学校のトイレに不安を感じていた子どもたちも安心して使用できることがありがたいですね」と話します。

校長先生をはじめ、教職員の方々が児童や生徒一人ひとりと丁寧に関わり、育てていくというきめ細かさ、その言葉から伝わってきます。



1階女性職員トイレ

窓のある明るい個室でリラックスできる。



保育園内のトイレ

トイレが楽しくなるキッズトイレスペース。サポートしやすいスペースが十分に確保されている。



エレベーター横2階バリアフリートイレ

各所に配置されたバリアフリートイレにはフィッティングボードも設置。

学校のトイレ 事例 詳細情報はこちら

学校のトイレ 事例 検索



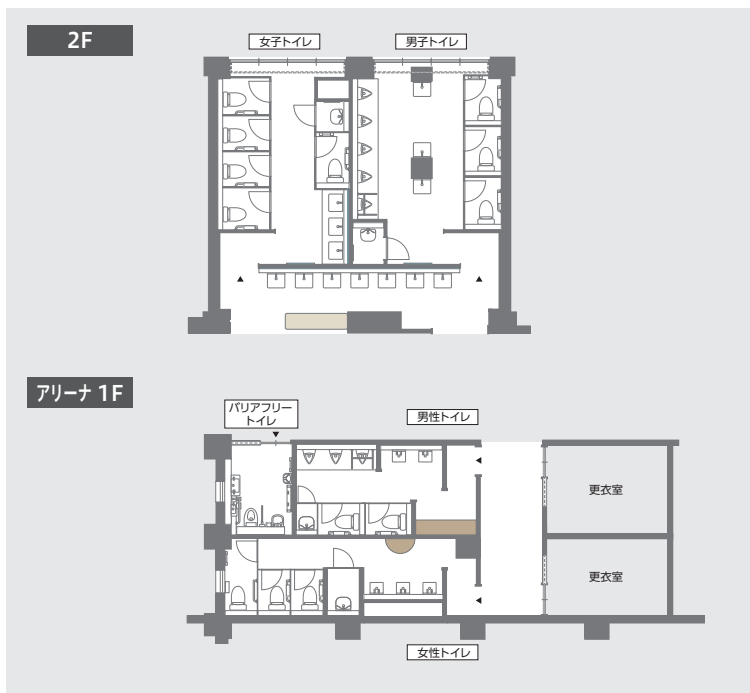
セキュリティ扉

地域の方が地域交流スペースを利用する際は、扉で教室エリアへの動線を断ち、セキュリティに配慮。



ランチルーム前手洗いコーナー

みんなで昼食をとるランチルームには高さの異なる手洗いカウンターを整備。



普通教室に面する2階のトイレは入り口部分に手洗いとベンチが設置され、新しいトイレの空間利用を定義。アリーナのトイレは地域の方々の利用にも配慮して手すりやバリアフリートイレを設置。

名称:高山市立荏川さくら学園／所在地:岐阜県高山市荏川町新淵130／児童生徒数:児童数:25名／生徒数:20名(2025年5月)／施主:高山市／設計・監理:大建設計株式会社／施工:(建築)飛騨・丸仲特定建設工事共同企業体(機械)アクア・洞口特定建設工事共同企業体(電気)高山電気工事株式会社／竣工年月:2025年3月

きれいな校舎やトイレを通して 「大切に使う」という心を育てる

「校舎完成後のお披露目会で、子どもたちが最も喜んでいた場所の一つがトイレでした」と話すのは、川上祐輔教頭先生。以前はタイル張りで和式便器と洋式便器が混在し、窓も小さく暗い空間でしたが、開口部を大きく取って採光性や開放感を高め、照明もLEDに換えることで明るさを増しています。

特に、子どもたちが感激したのは、手洗い器や鏡の高さにさまざまなバリエーションがあることでした。それは新しい学校についての意見交換を行った際に、年齢や身長に合う高さにしてほしい、と要望したことがしっかりと叶えられていたからです。また、以前はタイル張りであったことから、汚れがこびりつきやすく、掃除もしにくかったのですが乾式化によりフラットになることで汚れもふき取りやすく、掃除がしやすくなったという生徒の声も届いています。トイレが心地よい空間になることで自分たちが使う場所を普段から大切に使うという気持ちも芽生えてきました。

荏川町には、以前より地元の人々が地域の掃除や草刈りに積極的に取り組むことで美しい環境を自分たちで守っていく風土がありました。そういった良き習慣は新しい校舎で学ぶ子どもたちの中にも育まれているようです。



2階男子トイレ

手洗いコーナーをセンターに配置し、明るく見通しのよいトイレにリニューアル。自動水栓を採用。

事例

01

新築

改修

岐阜県高山市

高山市立荘川さくら学園

地域とつながり愛着を育むトイレ

荘川小学校と荘川中学校を統合し、誕生した義務教育学校

高山市の西部に広がる荘川町は、日本三霊山のひとつ「白山」の雄大な姿を眺望できる自然豊かな地域として知られています。その地に立つ高山市内で初となる義務教育学校「荘川さくら学園」は、荘川小学校と荘川中学校を統合し、令和5年度から工事を開始。この4月に開校式を迎えました。

校名の「さくら」は、岐阜県の天然記念物であり、「奇跡の桜」として知られる荘川桜（しょうかわざくら）にちなんでいます。この桜は約500年にわたり、地域を見守り続けてきた特別な存在です。

「同学園開校の背景には旧小・中学校や保育園の建物の老朽化と少子高齢化による人口減少がありました。その課題解決に加え、荘川地域を担う子どもたちにより良い教育環境を提供し、同学園を中心と

した将来性豊かな荘川を構築するために誕生しました」と高山市教育委員会の加藤直也さんは話します。

建物全体はアリーナを中心に保育園がある建物と、教室や職員室や特別教室がある校舎が直角に交わり、敷地内には、1～9年生が通う義務教育学校のほか、保育園や給食センターも併設。校舎棟と隣接する場所には地域交流スペースが設けられ地域の会合や獅子舞などの地域芸能を学ぶ場所として利用されています。同交流スペースの利用においては、教室エリアとの動線を扉で遮ることができるようにするなど、セキュリティ面にも配慮しています。校舎からアリーナ、保育園までを屋根付きの渡り廊下でつなぐ「荘川のこみち」は、天候に左右されることなく快適に移動ができます。また、児童や生徒、教職員が

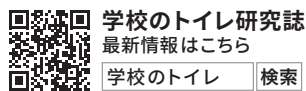


いっしょに利用できる、広いランチルームが設置され、昼食時のほか、保護者会や教職員のミーティングなどフレキシブルに活用されています。また、特別支援学級として利用できる教室が3クラス設けられています。

アリーナをはじめ、校舎内に天然の木がふんだんに使われているのが特徴的で、ぬくもりを感じる風景を創出。それらの一部には工事で伐採された敷地内の杉の木がフローリングに用いられています。

トイレが変わる、トイレで変わる

学校のトイレ研究誌



学校のトイレ 検索



学校トイレの最新現場事例

1. 高山市立荘川さくら学園(岐阜県)
2. 茅野市立永明小学校(長野県)
茅野市立永明中学校(長野県)

最新全国自治体
アンケート調査報告 2024